

# 掴んだダイヤモンド

## 第26普通科連隊で 11名のレンジャー誕生



すべてはこの瞬間のために。  
一人一人に連隊長より  
レンジャー徽章が授与された。

第2師団では、5月11日から7月25日までの間、第26普通科連隊(留萌)において陸上自衛隊で最も過酷な訓練と言われる部隊レンジャー養成訓練が行われた。訓練の目的は主に挺身行動で、困難な状況を克服して、任務を完遂する能力と精神力を付与すること。教育の担任官に連隊長である宮崎浩一佐、教育隊長は白山1尉、主任教官には古澤2尉が本訓練を担当した。



今回チャレンジした隊員達は、素養試験に合格した27名。前半は、約6週間にわたる基本訓練。体力調整、ロープ訓練、ヘリコプターからの空路潜入、ボートを扱う水路潜入等の基礎を学んだ。



後半は行動訓練。山岳地帯の厳しい自然環境の中、広範囲におよぶエリアで9つの想定をこなして行くが、最終想定に残ったのは僅か11名であった。



敵通信所襲撃場面

7月18日非常呼集から始まり任務付与・計画作成を留萌駐屯地で行い、夕刻より空路により留萌演習場に潜入し最終ミッションがスタートした。

最終想定は、夜間を含む各種潜入、襲撃及び道路破壊、不撓不屈・没我協調の精神力を養う事が大きな目的。隊員達は、不眠不休の中、任務を完遂すべく、互いに協力し合い、苦難を乗り越え作戦を成功させた。



作戦開始



帰還式で連隊長に任務終了報告を行い過酷な訓練を乗り越えた者のみに贈られる、レンジャー徽章が一人一人に渡された。

隊員の家族らからは「皆で焼き肉食べにいこうね」「今告白されたら即OKです」「かっこいいです」など安堵の表情と心からのねぎらいの言葉が聞こえた。

主任教官の古澤2尉は「今からがレンジャー隊員としてのスタート、レンジャーバッジを輝かせるのも燃らせるのも自分次第。今後もしっかりと練成し輝いてほしい」と語った。



21日、11名全員が留萌駐屯地に帰還。家族や同僚達が花道をつくり暖かく出迎えた。出迎えた隊員や家族を見た時、力強く輝いていた目に思わず涙が…